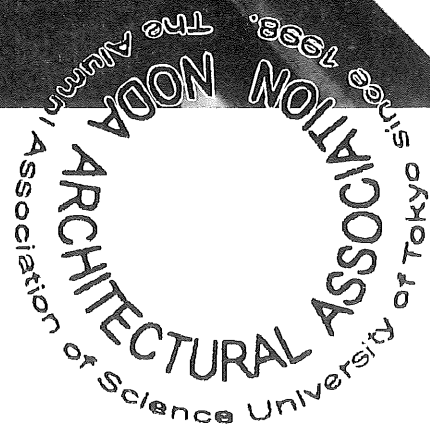




野田建築会会報 2010 春号

NAA NEWSLETTER 10 SPRING

VOL.23



私は28歳で東京理科大学工学部建築学科に赴任しました。その時は卒研生と年齢がほとんど変わらず歳の近い先輩、仲間同士といった感じでした。

それから38年経ちました。その間、建築環境工学、特に温熱環境の勉強、研究をしました。東京理科大学工学部の広大なキャンパスを利用して、数々の実験装置を設計しました。

太陽熱集熱システムの開発、開口部の熱流測定、超高断熱住宅の開発、天井放射冷暖房システムの開発、集合住宅排水実験、光触媒利用蒸発冷却実験等の施設を建設し、実験、実測をしました。

長万部基礎工学部にも超高断熱実験住宅を竣工させました。キャンパス外では、実施設を利用した熱源システムの実測調査、氷蓄熱槽の熱的性能実験、地下鉄排熱利用等も行いました。

放射熱伝達率、対流熱伝達率等建築環境の物理量を実験により求め、数値シミュレーションに利用しました。

学生時代、大型コンピュータが東京大学に導入されたことを機に、熱負荷計算を大型コンピュータで行うことを試み、レスポンス・ファクタ理論を展開させて間欠空調の蓄熱負荷計算、室温変動計算へと発展させ、多数室非定常熱負荷計算プログラム(LESCOM)を開発しました。

現在でも応用拡張を行っています。同時に、熱負荷計算をするための気象データの整備の必要性から、当時の気象庁データの日原簿が3時間間隔であったが、記録紙から毎時データを読み取り、1時間間隔に作り直す作業を行い、日本全国67地点標準気象データや東京近郊の昼光標準データを整備し、瞬時に利用できるようにしました。

研究論文は建築学会関係では日本建築学会論文集(黄表紙)43編、日本建築学会技術報告集9編、Journal of Asian Architecture and Building Engineering 1編を出すことができました。2003年には日本建築学会賞(論文)をいただくことができました。

これらは卒研生皆様の長年にわたる実験、実測調査と私のシミュレーションソフト(LESCOM)が社会に認められたものです。

武田研究室の卒業生は学士529名、修士69名、博士4名を輩出することができました。何物にも代え難い喜びです。長年の努力で皆様と同様、東京理科大学をこのたび卒業できたものと思っています。卒業生の皆様、ありがとうございました。

<略歴>

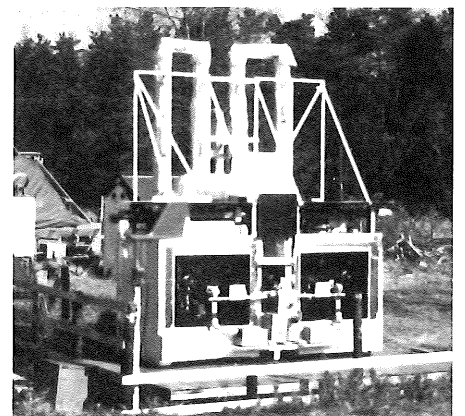
- 1943年 兵庫県淡路島に生まれる
- 1967年 早稲田大学工学部建築学科卒業
- 1969年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修士課程修了
- 1972年 東京大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了
工学博士(東京大学)
論文名:「空調熱負荷特性の研究」
東京理科大学専任講師
- 1973年 第11回空調和・衛生工学会賞(論文)受賞
論文題目:「空調和の実測調査と理論計算(第1～第3報)」
- 1974年 東京理科大学助教授
- 1988年 東京理科大学教授
- 2003年 日本建築学会賞(論文)受賞
論文題目:「温熱環境実測と動的シミュレーション手法に関する一連の研究」
- 2010年 東京理科大学教授退任
東京理科大学嘱託教授



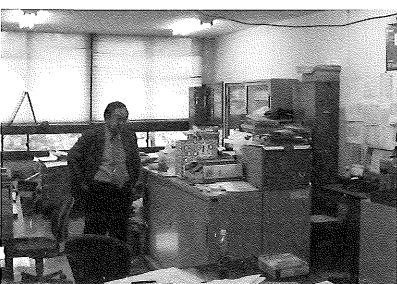
光触媒実験棟(北・西面)



長万部超高断熱実験棟



開口部実験装置



研究室風景(H22.1撮影)



平成20年BS日本テレビ「大学に行こう」取材



平成21年 卒業式謝恩会

「OB と語る会」レポート

向井 智久(むかい・ともひさ)

1975年 佐賀県生まれ
 1997年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
 1999年 同大学院修了
 1999年 東京理科大学理工学部建築学科野村研究室助手
 2003年 博士(工学)
 2004年~独立行政法人建築研究所
 2008年~政策研究大学院大学准教授



岡野 道子(おかの・みちこ)

1979年 埼玉県生まれ
 2001年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
 2003年 同大学院修了
 2005年 東京大学大学院博士課程中途退学
 2005年 伊東豊雄建築設計事務所入所



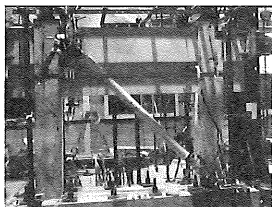
2009年12月4日、「OB と語る会」が開催されました。今回は、1997年卒業の向井智久さんと2001年卒業の岡野道子さんに講演をお願いしました。

向井さんは、野村研究室の助手を勤めながら研究を進め、2003年に東京理科大学で博士号(工学)を取得しました。現在は独立行政法人建築研究所にて鉄筋コンクリート構造の技術研究を行っている若手研究者です。講演では、大学時代から現職に至るまでの経緯やこれまでに携わった研究・調査プロジェクトを紹介していただきました。

阪神大震災や建築基準法の性能規定化があったのは、向井さんが大学・大学院に在学されていた時期と重なり、大学時代にこのような変化を直に感じられる分野にいたことが貴重な経験であったと言えます。建築研究所に勤務してからは、所内外の数多くの重要な研究プロジェクトや行政支援として中越地震の現地調査や耐震偽装事件に対する検討などに取り組んでいます。建築研究所内のプロジェクトの一例として紹介した「地震後の建築物の機能維持・早期機能回復を目的とした研究」は、現在の建物は耐震設計によって安全性能は確保されているものの、地震後に、その機能が確保された設計にはなっていないことから、今後クライアント自らが建物の機能性を選択できるシステムの開発が必要となっており、性能評価型耐震設計方法の将来の方向性を示す壮大な研究プロジェクトです。これに関連して昨年の秋に行われた実大実験の様子についても紹介がありました。

講演の最後に向井さんが言った「公的機関の研究者としての責任を果たしつつ、自分自身の個性を磨いてゆきたい」との言葉は、私を含め学生の琴線に触れたのではないかと思います。

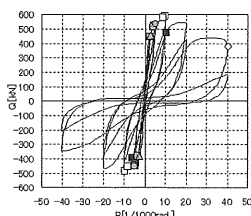
(文責 衣笠研究室 助教 鈴木淳一)



鋼材ダンパーで補強されたRC架構実験



中国研修生との集合写真



超強度繊維補強コンクリートを用いた袖壁による柱の補強実験

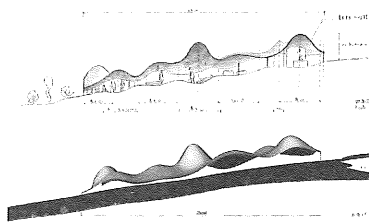


実大 RC 造試験体

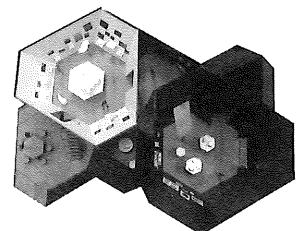


※1 伊東豊雄建築ミュージアム

※3 劇場「座・高円寺」



※2 スタジアムの軌跡



※4 内部空間の模型

岡野さんは2003年小嶋研究室で修士課程を修了後、東京大学の博士課程(曲淵研究室)を経て、現在は伊東豊雄建築設計事務所に勤務しています。講演では、岡野さんが入所時から担当している愛媛県今治市に計画中の「伊東豊雄建築ミュージアム」(以下、伊東ミュージアム)のプロジェクトを中心に、現在までの活動を説明しました。

「伊東ミュージアム」の計画(※1)は、もともとクライアントの私設美術館として計画されていました。しかし、設計が進んでいくなかで、伊東氏の「若い人のための建築塾をやりたい」という夢をクライアントと共有するようになり、私設美術館から建築博物館へと変化したそうです。事務所内で行われているクライアントとのやり取りやスタディの軌跡(※2)を外部の者が目にするチャンスはあまりありません。岡野さんの講演を聞いて、実際にできあがる建築の背後に隠れてしまうプロセスはとてもダイナミックで、そこにこそ建築家やスタッフ達の喜びや苦悩が凝縮されているのだと改めて感じました。こうした通常、表に出ないエピソードを多数披露してもらえるのも、OBが後輩に向けてリラックスして語ってくださる本会の良さであると同時に、学生達が最も興味をひかれる部分なのだと思います。今回紹介して下さった4種類の多面体を隙間なく積んでいくことによって有機的なつながりをもつ内部空間を実現した「伊東ミュージアム」(※4)の竣工は2011年の予定です。また、入所後も担当された屋根が特徴的な劇場「座・高円寺」(※3)は、中央線中野~高円寺間で電車からも目にする事ができます。いずれもお近くの方は、ぜひ。

(文責 奥田研 助教 中畑昌之)

井上隆研究室設立 20 周年に寄せて

井上隆先生の研究室が発足して 2010 年 3 月で丸 20 年となりました。

OB・OG の方々に井上研の 20 年を振り返っていただくとともに、ご自身の近況について報告していただきました。

先生の言葉を胸に困難に立ち向かう

小関 由明 (93 年院卒)

井上研 20 周年おめでとうございます。

今から 20 年前、私は井上先生の講義を受講していませんでしたが (3 年生の時に先生が赴任されたため)、純粋に建築設備・環境分野を学びたい一心で、研究室の扉を叩きました。今改めて思うと、どこの馬の骨か分からない私を研究室のメンバーとして受け入れて下さった井上先生に感謝します。



今や地球温暖化問題は各国首脳が議論するほど人類共通の問題として認識され、これを無視した人類の営みはできません。しかし私の学生当時は世間一般には殆ど認知されておらず、建築業界においては「建築・設備分野において重要な役割を担うであろう」と徐々に認識が芽生え始めた時期だったかと思えます。まさかこんな時代になるとは想像もせず、今ややりがいと使命感で身が引き締まる思いです。

現在大学を訪ねると 2 号館にはエレベータ設置、耐震補強、レイアウト変更がなされていますが基本的には 20 年前と変わらず懐かしさを感じます。私が大学院生だった時に研究室のスペースが倍増して現在の広さに拡大したとき、井上先生の号令で、学生皆で隣室間の壁を解体したことはよき思い出です。

学生当時は日頃の研究活動の気分転換に、よく皆で大食い夕食に繰り出しました。やよい食堂のかつライス (上)、ホワイト餃子のノルマ 30 個、フライパンのグラム指定ハンバーグ、すたみな太郎の焼肉食べ放題... メタボを気にしなくていい時代が懐かしいです。

研究活動においては井上先生からいろいろご指導いただき、様々なアドバイス・教えをいただきました。と言っても説教されたことは一度も無く、むしろ物事の捉え方、飽くなき探究心など研究に対する井上先生の取り組み・姿勢を、背中から感じ取っていたという方がいかもしれません。

先生がおっしゃっていた印象に残っている教えの一つに「『できない』を証明することは難しい。」という言葉があります。困難の壁にぶち当たったとき、容易に思いつく「できない」理由をたくさん並べる暇があるのならば、どうしたら乗り越えられるのかに注力し、一つの突破口 (反例) を見つけ出して「できる」を証明しなさい、という意味です。この言葉は仕事をする上でも今なお思い出し困難に立ち向かう励みとなっています。

この言葉を胸に秘め、これからも世の中の使命を背負って井上研究室が発展していくことを切に希望します。

小関 由明 (おせき よしあき)
1968 年、愛知県生まれ。1991 年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。1993 年、同大学院修士課程修了。1993 年～、(株)大林組。



井上先生を囲んで (2009 年 12 月 5 日井上研 OB 会、東京・日本橋にて)

今日も続く井上研究室とのステキな関係

島添 雅美 (98 年卒、写真右)、酒井 涼子 (98 年卒、写真左)

島・酒：井上研究室の設立 20 周年、おめでとうございます！

島：私たち二人は第 9 期生、OB の中では真ん中の世代となり、研究室に在籍した 1 年間は、井上先生がウィーンで研究されていた時期にあたります。メンバーも修士生、学部生合わせて 11 名と少数精鋭 (!?), ちょっと変わった年度でした。

酒：少人数のため、いつも皆が研究室に集まることができ、皆で運河のゴミ拾いをしたり、金魚の世話をしたり、たまに研究をしたり (※) と、とても仲が良くアットホームな雰囲気でした。

(※注：ホントはきちんと毎日研究していました。)

島：残念ながら、研究室在籍中に井上先生にお会いできたのは 2~3 回。とは言え、距離を超えての先生のご指導と、先輩方の強力なサポートの下、無事に卒論を終えることができました。そんな研究室時代をともに過ごした私たちですが、卒業後 10 年の歳月を経て、また同じ会社で働くようになり、今は建物のエネルギーに関する仕事をしています。

酒：私は仕事でも井上先生や研究室の皆さまにお世話になっておりますが、井上研究室との共同研究の成果がなんと平成 20 年度の環境白書にも掲載されました。社会に出て改めて井上研究室の研究レベルの高さを実感しました。

島：私は転職時に井上先生に大変ご心配をおかけしてしまい、申し訳なく思うと同時に先生の暖かい心配りに感謝した事も思い出されます。(涙)

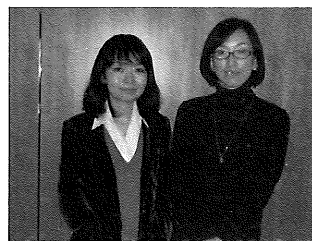
島・酒：社会に出てからは井上研出身というだけで、井上先生のように「人柄も能力も優れている」と思いこまれる事が多く、戸惑いつつも、井上研究室の名に恥じぬよう自己研鑽していかなければと思っております。今後も宜しくお願い致します。

酒井 涼子 (さかいりょうこ)

1975 年、神奈川県生まれ。1998 年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。(株)東京電力。

島添 雅美 (しまぞえ まさみ)

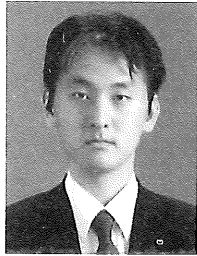
1975 年、千葉県生まれ。1998 年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。(株)建築設備設計研究所。2007 年、(株)東京電力。



なんにでも全力を尽くす

関 佑介 (08 年院修了)

私が3年生のときには、「地球温暖化」や「省エネルギー」というキーワードを頻繁に耳にするようになっており、環境へ社会の注目が日増しに高まっているのを感じていました。どうせなら社会的に意義のある研究がしたいと井上研究室で師事させて頂こうと決めました。その際、「井上研究室はものすごく厳しい、卒業したいだけなら他の研究室にした方がいい」そんな噂が学生間で流れていたため、かなり緊張して研究室のドアを叩いたのを覚えています。



希望通り私は、省エネルギーに関係する研究(オフィスビルのペリメータレス化について)を行わせてもらいました。噂にたがわず、井上研究室は相当に厳しく、夏休みもほとんどとらずに計測作業に奔走し、論文提出前は研究室に何日も泊まり込んで書き上げた記憶があります(そんな時のOBから頂いた食

料の差し入れは大変ありがたいものでした)。

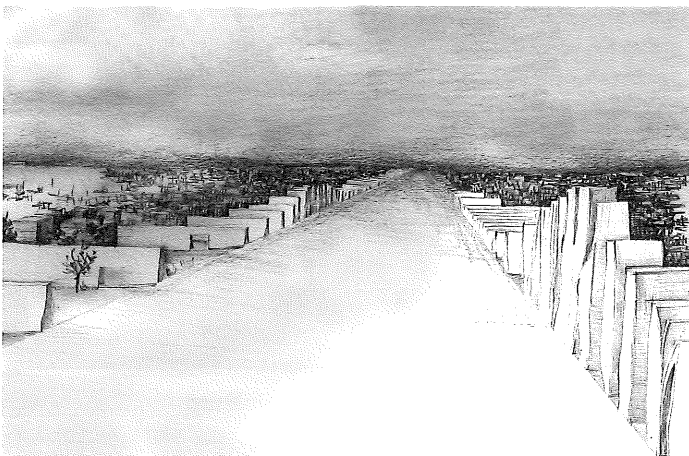
ただし研究ばかりで遊べないかというところと全くそんなことはなく、むしろ「しっかり遊べ」という雰囲気でした。先生の提案で、皆の趣味や旅行について研究室内で発表を行ったこともあります。先生ご自身はサイクリングを趣味にされているようで、よく土日にご自宅から研究室まで自転車に乗ってこられました。その途中で撮影された自然や動物などの写真をみせて頂いたこともあります。「仕事(研究)も遊びも全力を尽くす」のが井上先生のスタンスなのだと思います。

卒業後も運よく省エネルギーや環境に関する仕事に携わっています。難しい問題に直面し、つい妥協しそうになった時も、井上研究室で学んだことを思い出してなんとか挫けず頑張っています。

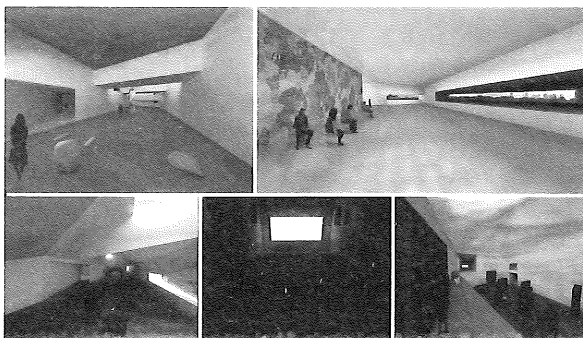
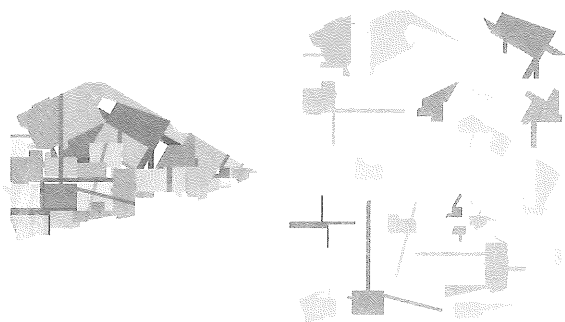
関 佑介(せき ゆうすけ)

1982年、東京生まれ。2006年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。2008年、同大学院修士課程修了。2008年～(株)NTTファシリティーズ。

2009 年度 卒業設計結果発表



向井優佳 (小嶋研究室) 作品タイトル: 2070



竹内吉彦 (小嶋研究室) 作品タイトル: 張りぼてと対

卒業設計賞(最優秀) 向井優佳 (小嶋研究室)



<作品説明>

普天間基地は宜野湾市の25%を占有する広大なvoidとして都市に存在している。戦後60年余りが経過した今、今後60年の普天間のあり方を考える。南北3kmに渡り伸びる滑走路と東西を分断する境界線。前者を残し、後者を解体し柔らかな直線で都市にインフラを通す。訪れた人の数だけこの土地を感じられる場を提案したい。

<受賞コメント>

本当に有り難い事だと感じています。設定したテーマの大きさに苦しんでいましたが、未熟な私に真摯に向き合ってくれた先生方には本当に感謝しています。構想から表現まで、4年間で最も充実した日々が送れたのも大きな手応えとなりました。修士課程に進んでからは、今回及ばなかったレベルまで自分を進めていけるよう努力致します。

卒業設計賞(優秀) 竹内吉彦 (小嶋研究室)

<作品説明>



張りぼては仮定の壁厚をつくり、その中に対の空間を予期させる。長くのびる開口は都市の隙間に隠れた距離感を拾い集め、内部に混在させることで奥を消失し、都市の喧騒を隔てながらも都市とのつながりを持ち続けるアートセンターを原宿に設計する。

<受賞コメント>

学部4年間の集大成としての卒業設計において優秀賞を頂くことができ大変光栄に思います。少しでも充実した時間を過ごせるような環境を考慮して下さった助教の皆さま本当にありがとうございました。今回の卒業設計で至らなかった点などを反省しつつ、これからも日々精進していきたいと思っています。

テレビ朝日「大改造!! 劇的ビフォーアフター」出演 OB 座談会

テレビ朝日の人気番組「大改造!! 劇的ビフォーアフター」(2002年4月～2006年3月)が3年振りに復活し、2009年4月からシーズンⅡが放送されています。毎回、個性的な建築家が登場していますが、調べてみると野田建築会 OB ではこれまでに4氏が出演していました。登場順に大原正氏(92年奥田研院卒)、滝澤俊之氏(92年初見研院卒)、田中聡氏(92年若松研院卒)、中尾英己氏(93年初見研院卒)です。建築設計事務所を主宰して活躍されている4氏に集っていただき、テレビ出演の話題を中心にざっくばらんに話していただきました。会場は中尾氏の事務所を提供していただき、高安重一氏(89年奥田研卒)も同席して千葉利宏(84年初見研卒)が進行役を務めました。

— 4人のうち、最初に番組に出演したのは04年3月放送の大原さんですね。

大原 2002年に竹中工務店を辞めて、山梨県の実家で兄が経営する土木会社の勝栄建設の中に大原建築研究室を立ち上げた翌年の03年に、番組の制作会社から突然に電話がかかってきたのが最初でした。山梨県にある住宅を番組で取り上げることになり、東京の西部方面から山梨にかけて引き受けてくれる設計者を探していたようです。「ホームページを見て連絡した」と言っていました。当時はホームページを立ち上げている設計事務所も少なかったの、目に止まったのかもしれませんが。

— すぐに話は決まったのですか?

大原 制作会社のディレクターは「いまヒアリングしている最中で、やるつもりはありますか?」とかなり上から目線でしたね(笑)。「特徴は何か?」など、いろいろと聞かれ、ゼネコン時代に研究していたスケルトン・インフィルの話には、かなり興味を持った様子でした。それから3か月後ぐらい経って忘れた頃に正式な依頼がありました。

— 次は番組に3回も登場している滝澤さんですが、最初の放送は04年10月でした。

滝澤 私の場合は、大原さんの紹介でした。

大原 制作会社から「人柄が良く、才能がある建築家を紹介してほしい」と言われたので、滝澤さんと高安さんに声をかけました。高安さんは「忙しくて引き受けられない」という返事でしたよね。

高安 そうだったかなあ(笑)。

滝澤 私に連絡があったときには「(番組出演を)引き受けてもらわなくては困ります」といった感じでした。余程、引き受け手がなくて困っていたのかなと思ってしまいました。大原さんに「どうしたら良いでしょう?」とメールしたのを覚えています。

大原 番組放送後に、制作会社からは「良い人を紹介してくれて、ありがとうございました」との連絡がありましたよ。

滝澤 大原さんが手がけた案件が大変だったと聞いていたので…。予算が850万円のところが、最初の見積では1400万円になってしまい、費用負担に困ったという話があったとか。

大原 最後は制作会社や、メーカー、工務店が今回限りということで協力してくれてトントンになりましたが…。

中尾 へーえ、そうなんだ。制作会社からは「予算内で…」と言われて、何とか収めました。

大原 最初に物件を見に行ったら、ボロボロの家で、「絶対に無理。引き受けられない」と断ったんですよ。すると、制作会社の方が、むしろ面白がっちゃって、番組タイトルも「崩れそうな家」になっちゃった。

— 制作会社の方も、無理に引き受けさせたので費用負担もしたんでしょうね。それで滝澤さんは?

滝澤 大原さんから「普段通りにやれば、いいんだよ」とのアドバイスもあったので、引き受けました。

— 3番目は2004年12月に番組放映のあった田中さんですが。

田中 私は、建築雑誌の「住まいの設計」を見ていて話が来たようです。他に何人か候補者がいたようですが、最初に話があって2、3か月後に決まりました。物件があるエリアで探してみたいですね。私は、大学卒業後、積水ハウスに入社しましたが、商品開発や市場調査に従事して実際の現場を知らなかったの、京都の工務店などで経験を積んでから01年に今の事務所を立ち上げました。

— 大原、滝澤、田中の3氏は同じ学年なんですね。

大原 田中さんが番組に出ると聞いた時は、どちらの田中さんかな?と。

田中 同じ学年に、全く同姓同名の田中聡さんがいましたからね。

— それは珍しいですね。その後、シーズンⅠの最終回(06年3月放送)に滝澤さんはもう一度出演しました。

滝澤 実はその前に2件ぐらい“ぼしゃった”案件があって、もう良いかなと思っていたのですが、「最終回ですから、ぜひ」と言われて、引き受けちゃいました。

— “ぼしゃった”というのは?

滝澤 予算が合わない、といった理由などでした。

— 09年4月にシーズンⅡの放送が始って、6月に中尾さんが初登場しましたたね。

中尾 実はシーズンⅠの時に、撮影が始っていた案件があったのですが、途中で駄目になっちゃって…。私に依頼があったのは、田中さんと同じで、対象となった物件の周辺で建築事務所を探して来たようですが、借地に建てられていたので、一応、大家さんに了解を取ろうとしたら、反対されて断念しました。そのまま番組も終了して、仕方がないと思っていたら、09年2月に連絡が入って「すぐにやってくれ!」と。

— 随分、急でしたね。

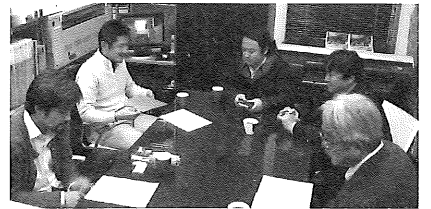
中尾 手帳にメモが残ってますが、2月3日に連絡があって、9日に現場に行って、13日に最初のプランを出しているんですよ。番組がスタートしたばかりでストックがなかったみたいですね。ただ、やりますか?やしませんか?と言われても、おカネも心配。某局の某番組では持ち出しという話も聞きましたし…。工務店もどこを使うのかで違いますよね。自らテレビ局に売り込んでくれるところもあるみたいですよ。大原さんのところは設計施工でやられたのですか?

大原 現場が遠かったの、兄貴の知り合いの工務店に頼みました。

中尾 私の場合は制作会社の方から「こちらの工務店でどうか?」と紹介されました。そこも1度、やりかけて途中でダメになったところだったようです。

滝澤 自分が普段、仕事をしている工務店を紹介して問題が起きると、その後の仕事に支障が出るので、制作会社の方で紹介してもらうことにしています。

田中 おカネの面では苦労しましたね。滝澤さんと同じで、知り合いの工務店は紹介したくなかったの、知り合いの大工に直接、お願いしたけど、それ以来、疎遠になっちゃったなあ。あれだけ手間をかけてやっても、予算は決まってい



るので、大工にとっても割に合わない仕事だったのだろうと思います。

— テレビ番組としての演出もあるから、大変でしょう。

大原 最初に依頼主からの手紙が渡されて、そこに設計に対する要望がいろいろ書かれているのですが、おカネのことも含めて画面に映っていないことがたくさんあります。私の場合は、撮影期間中、他の仕事がほとんど出来ませんでした。ほとんど毎日、現場に通わされて…。とにかく制作会社のスタッフの情熱は凄くて、こうやりたい、ああやりたい、と次から次にアイデアが出てくる。私としては、からくり屋敷みたいにしては依頼主に申し訳ないと思って、セーブするんだけど、番組スタッフ、とにかくAD（アシスタントディレクター）が一生懸命。彼らこそ、建築家になった方が良かったらいいですね（笑）。

田中 本当にADは大工仕事もやるし、カメラを回すし、掃除もやる。大工さんに仕事を止めてもらって、きれいに掃除して撮影するんですよ。

中尾 本当、簡単なボード張りも何でもやっちゃう。朝8時から夕方6時まで一日中、現場にいてカメラを回しているんですよ。映像を取るだけで、仕事のやり方がこんなに変わってくるのかと思いましたね。

大原 確かに仕事にはならなかったけど、楽しかった。登場シーンは30回ぐらい撮られました。「大原さん、まっすぐ歩いてください」なんて言われるんですけど、山梨の田んぼ道の傾斜があるところを歩かされているので、まっすぐと言われても、地面が傾いていて、どうしても身体が曲がってしまう（笑）。

— 登場シーンでは、必ず建築士に対してキャッチフレーズみたいなものがつきますよね。

大原 私の場合は“住構造の救命士”。建築分野には構造設計士がいて、彼らに申し訳ないので「止めてくれ！」と頼んだんだけど、笑いながら「ダメ！」と偉そうに言い放つんだよね。

— 田中さんはいかがでしたか？

田中 仕事を始めてすぐに、クライアントは依頼者ではなく、テレビ局なのだ気が付きました。最初は、私もいろいろな提案をしたのですが、制作会社の方がパワフルで、次から次といろいろな依頼が来るんですよ。要するに、テレビ番組として面白いものを提案してくるんですね。それが判ってくると、自分からは提案せずに、途中からは向こうの言いなりにやっていましたね。あまり、真剣にやられてないと思ってしまいました。

滝澤 私の場合は、テレビ朝日の若手プロデューサーが勉強のために現場に入ってディレクターをやったので、先入観なく双方が取り組みました。普段の仕事のやり方と、あまり変わらない感じでしたが…。依頼者にも2回ぐらい会いましたよ。

— 依頼者と打ち合わせはできるのですか？

中尾 打ち合わせはしませんでしたよ。

大原 打ち合わせしてはいけないルールのはずです。

滝澤 会っても、向こうの言うことを聞くだけでしたが…。

大原 基本的には、建築士の方で勝手に考えてくださいというやり方です。最初の渡された手紙に、設計条件がいろいろ書かれているのですが、とにかく家がボロボロだったので、そちらをどうするかをいろいろ考えました。

田中 私は、押入れの中に階段が作られている建坪9坪の古い家でした。放送があったあと、押入れに階段がある家をリフォームしてほしいという依頼があって驚きました。一応、話は聞きましたが、仕事には結びつかなかったですね。

— ちなみに、田中さんのキャッチフレーズは？

田中 私は“和の空間伝導師”でしたね。

中尾 いいなあ…。

一同 中尾さんの？

中尾 言いたくない、言いたくない。

一同（笑い）

中尾 僕の場合は“断面構造のフリークライマー”って付けられたんだけど、笑うでしょ。最初に「カタカナを付けるのだけは勘弁してよ」と言っておいたんだけど、エディターが伝えるのを忘れたみたいで、スタジオに入ってナレーションを聞いたら、それでしょ。止めてほしいと言いつつ続けたよ。「一度、テレビで流されたら、一生、付いて回るんだよ」と。

— 仕事の方はいかがでしたか？

中尾 私が扱ったのは、番組としては特殊なケースだと思うんだけど、購入したばかりの中古住宅をリフォームするというもの。依頼者にとって建物に対する思い入れがあるわけではなく、依頼主が特別な事情を抱えているわけでもないの、建築そのもので番組の特色を出していくしかないの、制作会社からは「コンセプトをいっぱい入れてください」と頼まれました。ある意味、楽だったかもしれませんね。

高安 番組で紙の家具を作ったのは中尾さんだよ。番組放送のあと、「家具はあれでいいんだ」と言い出すクライアントがいましたよ。テレビの影響は大きいなあ。

中尾 紙の家具は決して安くはないんですけどね。

— ところで、滝澤さんのキャッチフレーズは何でしたか？

滝澤 “空間方程式の芸術家”。それに相応しいように振舞わなくちゃならないんですね（笑）。どんなキャッチフレーズを付けられるのかは、端から諦めていて、勝手にどうぞ、と放っておきましたよ。

（続きは、NAA サイトへ）

大原 正（おおはら・ただし）

1966 山梨県生まれ
1990 東京理科大学理工学部建築学科卒業
1992 同大学院修了
1992 竹中工務店入社
2002 大原建築設計室(株)勝栄建設一級建築士事務所
<http://www.ohara-design.com/>



滝澤 俊之（たきざわ・としゆき）

1965 長野県生まれ
1990 東京理科大学理工学部建築学科卒業
1992 同大学院修了
1992～1996 (株)葉デザイン事務所
1996 滝澤俊之建築設計事務所
<http://www.takizawa-archi.com/>



田中 聡（たなか・さとし）

1966 兵庫県宝塚市生まれ
1990 東京理科大学理工学部建築学科卒業
1992 同大学院修了
1992 積水ハウス入社
1997 積水ハウス退社。
建売会社、工務店、輸入住宅販売会社、設計事務所を経て
2001 有限会社住空間設計事務所 ばんふう。
<http://www.banfoo.co.jp/>



中尾 英己（なかお・ひでみ）

1967 東京生まれ
1991 東京理科大学理工学部建築学科卒業
1993 同大学院修了
1993～1999 FPA inc. 一級建築士事務所
1999 有限会社中尾英己建築設計事務所
<http://www.nakao-architect.co.jp/>



協同することの可能性

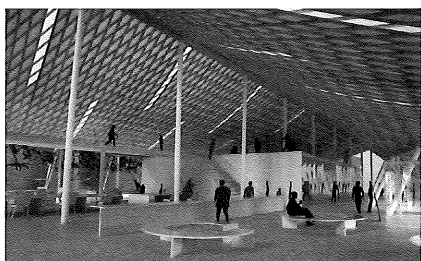
－ 柘澤 麻利 (99 年院修了) 群馬県農業技術センター設計提案競技 (09 年 9 月) 最優秀賞

2009 年は私にとって、理科大学大学院修了から 10 年という節目の年でした。

この 10 年、私はその多くの時間を山本理顕さんの下で、がむしゃらに走り続けてきました。特に「北京 建外 SOHO」では、山本理顕設計工場初の海外プロジェクトをコンペから現場監理(北京常駐)まで担当し、オリンピック開催を目指して凄まじいスピードで変貌を遂げる北京の街や活気あふれる人々の中に飛び込んでいった、という感覚がありました。建築を通して都市や社会に関わることができることに強い意義を感じると同時に、建築を作り上げていく事の難しさを痛感する、そんな毎日でした。

山本理顕設計工場では、スタッフや時には協力事務所も巻き込んで、多くの会話の中からアイデアを積み上げていくようにして建築を作り上げていきます。独立後も(規模は小さいながらも)同じようにコミュニケーションの中で設計していきたいと思い、山本さんの下で同じ経験を経てきた仲間と 3 人で、2008 年に「SALHAUS」という設計事務所を設立しました。

3 人での協同の方法を模索しながら活動していく中、昨年実施された「群馬県農業技術センター 設計提案競技」において、私たちは最優秀賞に選定されました。



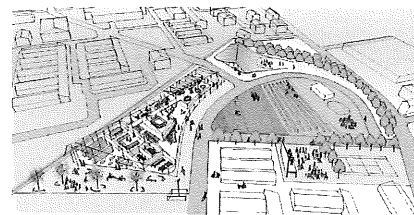
内観模型写真。木の大屋根による一体空間。上毛地域の山並みに調和するようなおらかな建築です。

この設計競技では、単に機能的な研究・実験施設であるだけでなく、農業関係者や地域住民に開かれた施設であること、生産者と消費者が共に学べる施設であることが求められました。

私たちは、様々なイベントに利用できる大きな広場と、広場

を囲うように配置した、テントのような懸垂曲面の木造大屋根に覆われた建築を提案しました。大屋根は、在来木造住宅で用いられるような小中断面集成材を網目状に組み合わせています。屋根面をテンション材で構成することで、同じスパンをトラス梁やドームで構成するよりも部材を小さくできます。

この設計競技では、3 人各々がアイデアを出し、案の方向性をしぼった後、構造家の佐藤淳さんと打合せをする中で、テントのような構造というアイデアが生まれ、一気に案



配置計画。大きな広場と大屋根の下の空間が、人々の様々な活動を支えています。

がまとまりました。現在基本設計を行っており、来年度が実施設計になります。広場や大屋根の下に人々が集い、共に農業や環境について考えることができる、これからの農業を支えるシンボルになるような場所となることを目指しています。

独立した若手にとって、公共建築に携わる機会が少ない昨今、10 年という節目の年に設計競技に勝利するという結果が出せたことは、非常に幸運なことだと思います。次のステージに向け、これまで積み重ねてきた経験を活かしつつ、3 人での協同という新たな環境の中で、建築家として社会に向き合っていきたいと思っています。

柘澤 麻利 (とちざわ・まり)
1974 年 埼玉県生まれ
1999 年 東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
1999 年～ 2006 年 山本理顕設計工場
2008 年 SALHAUS 一級建築士事務所 共同設立
2009 年～ 東京理科大学工学部非常勤講師
2009 年～ 株式会社 SALHAUS に改組



欄に記入願います。

【NAA サイトのお知らせ】

NAA では、個人情報保護の点から名簿の発行をとりやめましたので、それに代わる情報交換ツールとして NAA サイトを開設しました。サイトに会員登録すると、大学の動向をお知らせするメールマガジンも届くようになります。ビフォーアフター座談会の続きも NAA サイトに掲載しますので、これを機会にぜひご登録いただくようお願いいたします。

<http://www.rikadaikenchiku.com/>

野田建築会 会報 10 月号

2010 年 3 月 17 日

編集：会報部会

編集委員：有岡三恵・小園涼子・佐貫大輔・高安重一・千葉利宏・中畑昌之・前田智成・横山圭 (50 音順)

発行：東京理科大学野田建築会

〒 278-8510 千葉県野田市山崎 2641

<http://www.rikadaikenchiku.com>

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

NAA からのお知らせ

【会費納入のお願い】

野田建築会 (NAA) では、会則に則って平成 22 年度 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日) の普通会員の年会費 3,000 円を徴収しています。会費は会報の発行、OB と語る会の開催、NAA サイトの運営、見学会の開催、NAA 賞の授与などの活動費用として有効に使われています。

NAA の発展と活動の活性化を図るために、本年度会費をぜひ、納入いただきますようお願いいたします。つきましては会費納入のための郵便振替用紙を同封いたします。なお、振込みの時には、封筒の宛名ラベルに記載されている ID 番号を通信

【編集後記】

前号で予告した通りに、3 月末で退官される武田仁先生に寄稿していただきました。ありがとうございます。学生時代に教えていただいた先生も、残るは奥田先生と初見先生のお二人に。NAA 会報は、できるだけ多くの同窓生の近況を伝えることで、皆様のネットワークづくりに貢献できればと考えています。今後も恩師の退官などの節目に皆様の寄稿をお願いするほか、学会やコンペの受賞などの話題、ビジネスに役立つような情報もありましたら、ぜひ、情報提供をお願いします。

(千葉利宏 : f-planning@mbr.nifty.com)